

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 気仙沼市立唐桑小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他（ ）

所在地 〒988-0533  
宮城県気仙沼市唐桑町明戸208-6

E-mail karakuwa-sho@kesennuma.ed.jp

Website http://www.kesennuma.ed.jp/karakuwa-syou/index.php?page\_id=0

児童生徒数 男子 44 名 女子 38 名 合計 82 名  
児童・生徒の年齢 7歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☐ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☒ そのほか（ 海洋教育 ）

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

地域の人たちとの関わりが本校の大きな財産であり、カキ養殖に適した環境である。全校挙げてカキ養殖を中心とした海洋教育に取り組んでいる。

① 1, 2年生（生活科）「海に親しもう」

7月に学校近くの海岸に出かけて、流木などの漂流物や流れ着いた海藻を拾った。1年生は11月にサケの飼育活動を行い、次年度2年生になって、4月に稚魚を放流する。今年度は、1年生と一緒に近くの浜に放流した。また、7月に拾ってきた海藻を使って、NPO法人海の自然史研究所の指導のもと、1月に海藻押し葉作りを行った。



サケの稚魚放流



サケの稚魚飼育



海藻押し葉作り

② 3年生「海と関わる栽培活動をしよう」

栽培活動に理科的な視点で取り組み、豊かな土の中には豊かな生きものの世界があることを理解する。海藻肥料を利用した大豆栽培を行い、海の恵みが野菜栽培にも生かせることに気づき、海と陸とのつながりを意識させた。



大豆植え



海藻肥料を使ったプランターと普通のプランターの比較

③ 4年生「海の生き物やカキの秘密を探ろう」

磯の生き物やカキの秘密を調べたり、カキの養殖体験をする。6月には、カキの種はさみを体験した。3学期には、カキの解剖をしてカキの体のしくみを調べた。



カキの種はさみ体験



昨年度作ったカキいかだ模型



④ 5年生「海と山、自然の関わりを知ろう」

カキの成長や海の生き物、自然環境との関係を中心に学習する。7月にカキいかだの周りの海水にいるプランクトンを採取して調べた。豊富なプランクトンがカキのえさになっていることを知った。プランクトンが豊富な海にするためには、栄養分を作り出す森が必要であることを学習した。また、「森は海の恋人植樹祭」に参加し、森と海のつながりを実感することができた。2学期は、宿泊学習で土壌生物調査を行い、小さな虫たちの活動が豊かな森を作り出すもとになっていることを学習した。



森は海の恋人植樹祭に参加



カキの耳つり体験



プランクトン調べ

⑤ 6年生「豊かな海を発信しよう」

カキの温湯処理見学やカキの水揚げ・カキむき体験、定置網の体験をした。6月にカキ砕き体験をした。2学期には、定置網の体験等をした。また、地元の祭りである「ごっつおーフェア」に参加し、人間の手では創れない「唐桑の海」の豊かさを再認識した。最終的には海の豊かさの恩恵を受けて人間が生活していることを実感しながら未来へとつなげた。1月には、3年間、学校のカキいかだで育ててきたカキを収穫し、カキむきやカキの袋詰め体験をした。地元の職人さんの技や苦勞などに気が付くことができた。

6年生は、気仙沼市で行われた「海洋教育こどもサミット in 東北」、東京大学で行われた「全国海洋教育サミット」に参加し、本校の取組の様子を発信してきた。



温湯処理見学



定置網起こし体験



地域産業祭りへの参加



カキむき・カキの袋詰め体験



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☐ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）